

世界標準の図書館であるために ～OCLC、書誌レコードの流通、 および早慶共同目録～

慶應義塾大学メディアセンター本部
リソースマネジメント担当主任
原 直実

本日の内容

1. 慶應義塾大学メディアセンター
2. 外部ユーティリティーへの参加
3. NACSIS-CATへの図書所蔵登録停止
4. WorldCatへの所蔵登録の必要性
5. 共同目録開始後の運用と状況
6. 今後の課題

1. 慶應義塾大学メディアセンター

慶應義塾大学の6つのキャンパスそれぞれに設置された図書館と
2つの図書室 + 三田にあるメディアセンター本部



三田メディアセンター



日吉メディアセンター



信濃町メディアセンター



理工学メディアセンター



湘南藤沢メディアセンター



桑学メディアセンター



協生館図書室



看護医療学図書室

1. 慶應義塾大学メディアセンター

<沿革>

- 1858 福澤諭吉、築地鉄砲洲に蘭学塾を開く
- 1871 島原藩邸（現在の三田）の一室「月波楼」を図書室とする
- 1912 慶應義塾創立50年記念図書館（現在の図書館旧館）開館
- 1968 図書館旧館重要文化財指定
- 1982 慶應義塾図書館新館開設（三田）
- 1992 初の図書館統合システムKOSMOS稼働
- 1993 図書館の組織名をメディアセンターとする
- 2007 三田メディアセンターがGoogle Books Library Projectに参加
- 2019 早稲田大学図書館と図書館システム共同運用開始

2. 外部書誌ユーティリティへの参加

<OCLC>

- 1988年 三田情報センター (現 三田メディアセンター) が参加
- 洋書の所蔵登録 → 目録カードの打ち出し、図書館システムへの書誌インポート
- 和書の所蔵登録は行っていなかった

<NACISIS-CAT>

- 1986年 三田情報センター (現 三田メディアセンター) が参加
- 主に三田において、書誌および所蔵登録を行う
- 1992年稼働の図書館システムでは、CATPに準拠した書誌フォーマットを採用

3. NACISIS-CATへの図書所蔵登録停止

■ 1998年10月に図書館システムをリプレース

➤ 書誌フォーマットの変更

CATP準拠の慶應独自フォーマット → MARC21

➤ 和書に適用する目録規則の変更

NCR1987 → AACR2

➤ 各キャンパスの図書館、図書室の受入/目録作成業務等をメディアセンター本部に集中処理化 (図書はリプレースと同時期、雑誌は順次集中化)

3. NACISIS-CATへの図書所蔵登録停止

■なぜMARC21へ変更したのか

- 洋書遡及入力時にOCLC, UTLASの書誌を利用
書誌フォーマットとしてMARC形を使っている機関が多い
- MARC形の書誌をCATP準拠の慶應独自フォーマットへ変換して取り込み
フォーマット変換せずインポート/エクスポートできる方が外部に書誌レコードを流通させやすいのではないか

⇒ システムリプレースにあたり書誌フォーマット変更を決定

3. NACSIS-CATへの所蔵登録停止

■ 図書館システムリプレースの結果

➤ NACSIS-CATへの所蔵登録

書誌フォーマット/目録規則が異なり、システムとしてもNACSIS-CATとは直接接続しなかったため登録維持が困難になる

→ 図書の登録は1998年9月末で停止、雑誌の登録のみに限定
(雑誌は2023年10月現在も登録を継続)

➤ WorldCatへの所蔵登録

集中処理体制の確立に資源を割いたため、WorldCatへの所蔵登録までは実現できなかった

4. WorldCatへの所蔵登録の必要性

- 2007年 Google Books Library Project参加
- 2014年 Google Books Library Projectでデジタル化したデータをHathiTrustへ登録 (加盟は2022年2月)
- ISBN出現以前の国際的な書誌データの識別子として、OCLCIDが使われる
- 慶應の書誌にはOCLCIDが入っているものが少なく、特にISBNのない書誌の同定が困難

4. WorldCatへの所蔵登録の必要性

- 2017年5月 早稲田大学図書館と図書館システムの共同運用に向けた覚書締結
 - 目録業務の効率化のために一つの組織で早稲田/慶應両大学の目録作成を目指す
 - 共同で目録作成をするための細則、業務フローの検討
 - ✓ 早稲田のWorldCatへの登録の実績、登録継続への強い意欲
 - ✓ 慶應は書誌の流通に関して、OCLCIDの重要性を痛感
 - ✓ 新システムへ書誌移行する際のマッチングキーにもOCLCIDを使用

世界標準の書誌データ作成のためにもWorldCatへの所蔵登録を実施

5. 共同目録作成開始後

■ 2019年9月～ 共同目録作成開始

- 早慶とも新規受入資料の大半を登録
- WorldCatに該当する書誌があれば、所蔵登録
- 該当する書誌がない、または目録言語の異なる書誌しかない場合
→ 変換プログラム[※]を用いて、Almaの書誌をWorldCatへ
登録可能な状態に変換し、書誌および所蔵登録

※ WorldCatのValidation checkを通過させるための変換

例: 機関コード JTKU (Alma内) → KEI (WorldCat)

5. 共同目録作成開始後

- 慶應の場合、WorldCatへの登録開始以降は複写・貸借依頼とも増加 (2019年に比べ、2022年は複写 約10倍、貸借 約5倍の増加)
 - オリジナルでの書誌作成
 - これまでの経験から、早慶あわせて7%程度発生すると予測
 - 実際は約2%
- WorldCatに登録された多くの書誌を利用できる利点

6. 今後の課題

- WorldCatに登録されている日本語資料の書誌
→ 日本の機関が作成する書誌は注記などが日本語で書かれているが、WorldCatに一括登録される書誌には、注記などが日本語 (→ 目録作成言語 = 日本語) にも関わらず「目録作成言語 = 英語」として登録されているものがある。そのため、その書誌を利用できず**新規に登録する必要が生じる。元の目録作成言語の通りに登録してほしい。**
- 費用の問題
→ WorldCatを使用するにあたって必要となる**高額な費用負担**…

6. 今後の課題

- 一大学ではなく、大きな単位での一括登録
 - 特に和書については「日本」という単位で一括登録する方法はないか
 - NDL または NACSIS-CAT を通して、書誌・所蔵の一括登録はできないか
- 新NACSIS-CATの書誌
 - 内部ではMARC21フォーマットの書誌となっていると聞いているが、MARC21 ↔ CATP のフォーマット変換を行っては、元の書誌とは似て非なるものになってしまわないだろうか。
 - 書誌の流通のために「そのまま」使える状態がよいのでは。

最後に

- MARC21への変更、集中処理化、図書館システム共同運用など、詳しくは2023年10月に刊行される「慶應義塾図書館史 II」に載っております。
- 本学メディアセンターのサイトでPDF版も公開予定です。(公開時期は未定)
- ご興味がありましたら、是非ご一読いただけますと幸いです。

ご清聴ありがとうございました。